

## 「比べる」評価から「伸ばす」評価へ

校長 小椋 慶洋

73日間の長きにわたった1学期が終わろうとしています。この間、子どもたちは日々の学習に落ち着いて取り組み、音楽会などの学校行事にもやる気をもって生き生きと参加するなど、大変充実した毎日を過ごすことができました。これも、ひとえに保護者の皆様の高い関心とご協力のおかげと感謝申し上げます。

さて、7月は学校における子どもの学びを評価する月です。そこで今回は夏休みを迎えるに当たり、子どもを伸ばす教育評価の考え方についてお伝えしたいと思います。

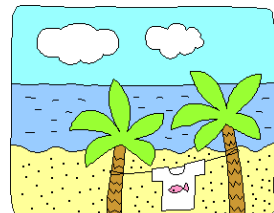
現在の教育評価の基本的な考え方は、「自分の子どもがクラスの中でどのくらいに順位にいるのか」といった評定をしたり、「誰よりできる」とか「誰より劣っている」など相対的な優劣を比べたりするものではありません。一人ひとりに自分の目標をもたせることを大切にしながら「目標に向かってがんばる子どもの育成」を目指す指導観と、一人ひとりの良さを伸ばす評価観に基づいて学習や行動の評価をしています。そして、学年が進むにつれ、自分の目標の達成具合を「子ども自身が自己評価できる力」を育てていくことも大切にしています。

こういった評価に対する学校(教師)の姿勢は、「特別の教科道徳」(全学年)や「外国語活動」(3年以上)、「総合的な学習の時間(ほまれの時間)」(3年以上)の文章による評価や「担任所見」に最もはっきりと表されています。文章で書かれている評価が、1学期のどのような学びの姿や生活態度とつながっているのか、ぜひお子さんに尋ねてみたり、易しくかみ砕いて説明してあげたりしてください。

一方、これに対して「国語」や「社会」などの教科では、「よくできる・できる・努力しよう」の3段階の記号表記による観点別評価をしています。3段階評価は、ともすると子ども自身も保護者の方も「『よくできる』の○の数がいくつあったか」ということに関心が向きがちだと思います。こちらについても「上がった」「下がった」という単純なとらえ方ではなく「どこが伸びてきたか」「何に努力が必要なのか」という視点で学習のふり返りができるように励ましてあげてほしいと思います。お子さんと一緒に1学期の学校生活を振り返っていただきやすいように、今年度は通信票の形式を改めました。裏面に説明していますので、ご覧ください。

なお、これまで「通信票」という名前でご家庭にお子さんの成績評価をお渡ししていましたが、今年度から「あゆみ」というタイトルに変更しました。この名前には、「比べる評価から伸ばす評価へ」という思いを込めた、一人ひとりの成長記録としての「あゆみ」という意味をもたせています。さらに、お子様の学習や生活の様子をお知らせすることで、学校と家庭が歩調をそろえて、ともに教育に当たっていきましようという願いも込めております。

それでは、これから長い夏休みに入りますが、どの子も健康と安全に留意して楽しい夏休みを過ごし、9月に元気に登校してくれることを待っています。厳しい暑さが続きますが、保護者の皆様もお体どうぞご自愛ください。



## 通信票「あゆみ」の見直しを行いました！

今年度から3・4年の外国語活動が始まりました。また、全学年で「特別の教科道徳」の評価をすることになりました。そこで、子どもたちに今求められている学力と、学校が指導改善に努めている内容を、保護者の皆様により具体的にお知らせするために、通信票「あゆみ」の見直しを行いました。

NO	氏名	〈学習の記録〉		
教科	観 点	1	2	3
国 語	国語に関心を持ち、意欲的に学習することができる	◎	◎	◎
	事からの順序や要点を、わかりやすく話すことができる	◎	◎	◎
	話の内容を正しく聞き取ることができる	◎	◎	○
	正しくわかりやすい文章を書くことができる	○	○	○
	文章の内容を正しく読みとることができる	○	○	○
	文字、言葉に関するきまりがわかる	◎	○	○
	文字を丁寧に、美しく書くことができる	◎	○	○
社 会	社会の事から関心を持ち、意欲的に取り組むことができる	◎	◎	◎
	社会のしくみや人々のはたらきについて、考えていくことができる	○	○	○
	目的に従って調べたり、資料を活用したり、表現したりすることができる	○	○	○
	社会に関する事から理解することができる	○	○	◎

これまでは、「◎よくできる ○できる △もう少し」の3段階による観点別評価を通年で1枚の様式に示していました。

昨年度までの様式

- 【長所】・一つの観点について、左から右へ1・2・3学期と伸びや変化を見比べることができる。
- 【短所】・学年ごとに評価観点の文章は少しずつ違いがあるものの、学年が進むにつれ、どのような力が求められているのかが分かりづらい。
- ・評価観点の文章が抽象的で、具体的にどういった尺度で評価されているのかが分かりづらい。

## ここが改訂のポイント！

明朝体で表している部分が、「**主な評価規準**」です。学習した内容に照らした各観点の「**評価のものさし**」を例示したもので、**学期ごとに変わります**。ただし、スペースの関係で、全てを記入しているわけではなく、代表的なものだけを示しています。

学習の記録（第4学年・1学期）				
教科	評価の観点 および 主な評価規準	よく できる	できる	努力 しよう
国 語	国語への関心・意欲・態度 ・進んで発表や音読をする。・物語や説明文、新聞に関心を持ち、進んで読む。・漢字学習に意欲的に取り組む。	○		
	話す・聞く能力 ・相手が知りたいことを考え、必要なことを選んで話をする。・順序や理由を表す言葉に気を付けて、大事なことを落とさずに聞く。		○	
	書く能力 ・読み手が分かりやすいように書くことの中心を明確にし、理由や事例を挙げながら書く。	○		
	読む能力 ・人物の性格や気持ちの変化を読み取る。・文章のまとまりをとらえ、段落どうしの結び付きを考えて読む。	○		
	言語についての知識・理解・技能 ・漢字の音訓と送り仮名、漢字辞典の使い方を理解する。・漢字の読み、書きが正しくできる。・文字を丁寧に書く。			○
社 会	社会的な事象への関心・意欲・態度 ・ごみの処理や水の利用に関わる仕事の工夫や努力について関心を持ち、意欲的に調べる。・分かったことや考えたことを進んで発表する。		○	
	社会的な思考・判断・表現 ・調べて分かったこと、考えたことをノートやプリントに表現する。		○	
	観察・資料活用技能 ・クリーンセンターを見学し、ごみ処理の仕組みや様子について調べ、大事なことをメモする。		○	
	社会的な事象についての知識・理解 ・ごみの処理が計画的に進められていることを理解する。・地図記号や地図の読み方が分かる。	○		

ゴシック体で表している部分が、「**評価の観点**」です。社会の場合、「社会的な事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用技能」「社会的な事象についての知識・理解」の**4観点で、年間を通じて変わりません。また、社会科を学習する3年生から6年生まで共通です。**

今年度からの様式

「あゆみ」表紙の内面ページにも、学習の評価や行動の記録の見方を簡単に解説していますので、併せてご参照ください。